

講義名	公共経済論			授業形態	
担当教員	仲間 瑞樹	開講期・曜日・時限	後期 月曜日 2 時限		
		単位数	2	履修開始年次	3 年生

主題と概要

私たちの日々の暮らし、企業活動に対して、政府はさまざまな形、さまざまな政策で関係しています。どうして政府は私たち、企業の経済活動に与る背景を学び、政府のさまざまな政策の経済効果について、経済学入門、ミクロ経済学、マクロ経済学の知識を活用しながら学びます。この講義を通して受講生の皆さんは、政府が関係する現実の経済問題と大学で学んだ経済学の知識との結びつきを見出し、現実の経済が抱えるさまざまな問題、課題を解決する力を養ってください。

到達目標

- (1) 政府が私たち、企業の経済活動に与る理由を理解できるようになる
- (2) 経済学入門、ミクロ経済学、マクロ経済学で学んだ知識、考え方を活用して現実の経済問題を把握できるようになる
- (3) 政府がさまざまな政策を行う場合の経済効果を、経済学入門、ミクロ経済学で学んだ知識、考え方を活用して説明できるようになる

提出課題

クリッカー機能を利用して、講義内容に基づく課題（講義5回につき1回の課題、合計3回）を課します。

課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバックの方法

RYUKA Portalを通じて、課題の解答例を受講生の皆さんに送信します。

評価の基準

- 課題の提出（30%）
定期試験（70%）
- 毎回の講義で出席を確認します
- 欠席回数が5回に達した時点で、定期試験を受けることができませんので、注意をしてください。
- 欠席回数が5回に達しているにもかかわらず定期試験を受験しても、定期試験を受験する資格がないので、そのような受講生は単位認定対象者から除外します。

履修にあたっての注意・助言他

この講義で扱うさまざまなトピックは、経済学のうち特に「経済学入門」、「ミクロ経済学」、「マクロ経済学」の知識だけではなく、ニュース、新聞、ビジネス雑誌等に取り上げられている現実の経済問題とも深く結びついています。現実の経済問題を、学んだ経済学の知識でどのように把握し、どのように解決策を考えたらよいかといったことを大切にしてください。

教科書

.使用しない。				
---------	--	--	--	--

参考図書

.クルーグマン ミクロ経済学 第2版.	ポール・クルーグマン ロビン・ウェルス	東洋経済新報社	9784492314821
.基礎コース 公共経済学 第2版.	井堀利宏	新世社	9784883842308
.ゼミナール 公共経済学入門.	井堀利宏	日本経済新聞出版	9784532132965

その他

毎回の講義で扱う講義スライドなどはキャンパスクロスにアップします。
特に復習では講義スライドが必要となります。

授業計画

- 1 政府の役割とは？
（講義内容の復習2時間・講義内容に関連する新聞記事を探し、講義内容を記事に適用しながら読む2時間）
2 消費者余剰、生産者余剰、総余剰
（講義内容の復習2時間・経済関連の新聞記事を探し、講義内容を適用しながら読む2時間）
- 3 誰が税金を負担する？
（講義内容の復習2時間・講義内容に関連する新聞記事を探し、講義内容を記事に適用しながら読む2時間）
- 4 価格規制（水・農産物）
（講義内容の復習2時間・講義内容に関連する新聞記事を探し、講義内容を記事に適用しながら読む2時間）
- 5 余剰分析（規制・課税の分析）
（講義内容の復習2時間・講義内容に関連する新聞記事を探し、講義内容を記事に適用しながら読む2時間）
- 6 余剰分析（規制の分析）
（講義内容の復習2時間・講義内容に関連する新聞記事を探し、講義内容を記事に適用しながら読む2時間）
- 7 公共財の考え方は？
（講義内容の復習2時間・講義内容に関連する新聞記事を探し、講義内容を記事に適用しながら読む2時間）
- 8 公的年金
（講義内容の復習2時間・講義内容に関連する新聞記事を探し、講義内容を記事に適用しながら読む2時間）
- 9 公的年金
（講義内容の復習2時間・講義内容に関連する新聞記事を探し、講義内容を記事に適用しながら読む2時間）
- 10 選挙の投票の維持可能性
（講義内容の復習2時間・講義内容に関連する新聞記事を探し、講義内容を記事に適用しながら読む2時間）
- 11 選挙と投票
（講義内容の復習2時間・講義内容に関連する新聞記事を探し、講義内容を記事に適用しながら読む2時間）
- 12 外部性
（講義内容の復習2時間・講義内容に関連する新聞記事を探し、講義内容を記事に適用しながら読む2時間）
- 13 課税
（講義内容の復習2時間・講義内容に関連する新聞記事を探し、講義内容を記事に適用しながら読む2時間）
- 14 公共経費のありかた
（講義内容の復習2時間・講義内容に関連する新聞記事を探し、講義内容を記事に適用しながら読む2時間）
- 15 公共経済論の現実への適用-日本経済新聞（経済教室）を利用して
（講義内容の復習2時間・講義で配布した記事以外の新聞記事を探し、講義内容を記事に適用しながら読む2時間）

授業形態（アクティブ・ラーニング）

ア：PBL（課題解決型学習）	イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）
ウ：ディスカッション、ディベート	エ：グループワーク
オ：プレゼンテーション	カ：実習、フィールドワーク
キ：その他（A-L型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合）	

卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

この講義は、流通科学大学の学生が卒業時に共通して身につけておくべき資質・能力のうち、特に「知識を知恵に転換することができる、論理的思考力を持った人材」との結びつきが強いです。講義で扱うさまざまなトピックを通じて、特に「現象や事実のなかに隠れている問題点やその要因を発見し、解決すべき問題を設定することができる（課題発見力）」、「さまざまな条件・制約を考慮して、解決策を吟味・選択し、課題の解決に向けて適切な情報取りを明らかにした上で、具体化することができる（構想力）」を養うことを目標としています。さらに講義で学んだトピック、考え方を活用して、各種新聞の記事内容を深く理解することも目標とします。

なお経済学部の共通ディプロマ・ポリシーには「現代社会の問題を幅広い観点から考察し、課題を提案することができる」、「現代経済コースのディプロマ・ポリシーには「世の中の動きを理解して、経済問題を中心に現代社会の諸問題に解決策を提案することができる」、「そして地域まちづくりコースのディプロマ・ポリシーには「経済学を基盤にして、複雑化する地域社会で生起する問題を読み解き、解決策を提案することができる」と記されています。この講義を通じて、受講生が私たちの経済、地域社会が抱える諸問題を把握し、政府部門がどのような解決策をもって関わっていくべきかといったことを考えられることをも目標としています。

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述

クリッカー機能を利用する場合は、事前に案内をします。

実務経験の有無及び活用

該当せず

備考

選別は厳格です。自己都合による遅れての教室への入室（遅刻）の場合、講義を中断して講義スライド資料などを配布しません。

講義終了近くに教室に入室した受講生は、講義終了後、クリッカー以外の方法で出席確認を別にとります。

3回の課題は全て提出しましょう。課題提出の点数がわずかに足りず、不可となる受講生がいるからです。

講義には全て出席しましょう。課題提出、定期試験の結果が良好でも、欠席回数が5回に達しているため、単位認定対象者から除外される受講生がいるからです。